

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32648

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K06756

研究課題名(和文) 通信建築にみる我が国の国際建築様式(インターナショナルスタイル)の受容について

研究課題名(英文) Study on acceptance of international style in Japan in Ministry of Communications building

研究代表者

大宮司 勝弘 (DAIGUJI, Katsuhiko)

東京家政学院大学・現代生活学部・助教

研究者番号：00398778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：ヨーロッパから始まった国際建築様式は日本でも昭和初期の通信省建築に受容されたが、近年では解体されるものが多く、これらの記録が急がれるところである。本研究の骨子になるのは、これら建築の設計図面の分析と現地での記録調査作業である。研究にあたり劣化の進んだ建築図面10件について補修および電子データ化を行った。次に各地に残されている10件の実地調査をした。また地元の図書館、公文書館、法務局等で文献や公文書から建物の履歴調査も行っている。なお旧熊本通信病院や貯金支局、吹田電話局は解体直前に記録調査が間に合った形であった。それらの成果については日本建築学会での口頭発表、市民向けの講演も行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現存している通信省建築の調査は、日本の近代建築史における国際様式受容の位置づけに役立つものとなる。とくに解体直前に内部調査を行った3件は寸前で間に合った形であり、今後の貴重な記録となるであろう。既に過去のものとなった通信建築についても図面などからその様子を明らかにできた。これは建築史研究に役立つばかりでなく、地域の歴史資料の一部となりえるものである。本研究の為に東海大学学園史資料センター所蔵の劣化した通信省建築図面の補修及びデータ化を行ったが、これらは後世における近代建築史研究の一次資料として重要なものになるであろう。

研究成果の概要(英文)：The international architectural style that started in Europe was accepted by the Ministry of Communications in the early Showa era in Japan, but in recent years many of them have been dismantled, and these records are urgently needed. The essence of this research is the analysis of design drawings of these buildings and the on-site record survey work. In the study, 10 architectural drawings that had deteriorated were repaired and converted into electronic data. Next, we conducted 10 field surveys left in each region. In addition, local libraries, public archives, legal affairs offices, etc. are also conducting historical surveys of buildings from documents and official documents. The former Kumamoto Communications Hospital, the former Kumamoto Savings Branch, and the Suita Telephone Office were in the form of a record survey just before dismantling. Regarding these achievements, we give oral presentations at the Architectural Institute of Japan and give lectures for citizens.

研究分野：建築学

キーワード：インターナショナルスタイル 通信建築 近代建築史 建築現況調査 建築図面 建築履歴調査 電子データ化 青図補修

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

戦前、我が国の郵便や電信の発展期において、全国各地に局舎等の施設を設計した逓信省営繕課は、官僚の集団でありながら時代をリードする個性溢れる建築家を多く擁していた。日本初の建築運動とされる分離派建築会に所属していた山田守(1894～1966)や山口文象(1902～1978)、吉田鉄郎(1894～1956)など、インターナショナルスタイル導入期の日本建築界の中で重要な役割を担っていた。

残念なことにその多くの建築は戦後に解体され、今なお解体が進んでいるが、かろうじて残されているものもある。これらの建築を記録、近代建築史上で位置づけることは重要である。

ところで、建築の設計思想やデザインを記述したものとして設計図面や周辺資料の存在は大変重要であるが、その多くは散逸している。そういった状況のなか、山田守が戦後に勤めた東海大学に、教材として持ち込まれた戦前の逓信省建築の青焼き図面集93冊が残されていることが判明した(図1)。かなり劣化した状況であるが、冊子状にされて保管されている。これら重要な資料を死蔵させることなく、詳細に整理、分析することによって、我が国近代建築導入期のデザイン手法の一端を明らかにする一助になると筆者は考えた。

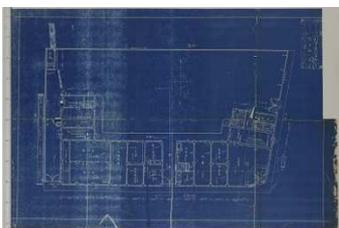


図1-2 千住電話局青焼き図面

郵便局、電話局など逓信建築はどここの街にもある我々国民に身近な建築である。また近代建築史上においてインターナショナルスタイルの受容の時代は、現代に住む我々建築世界の端緒と言って良い。現代建築を知る上でも本研究は重要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、逓信省建築のデザイン手法の一端について図面分析と周辺資料調査を通して明らかにし、同時に建築アーカイブスの体裁として整備することにある。筆者はこれまで山田守研究を進めていく中で、図面の整理を行ってリストにまとめ、表現手法など詳細に分析を行い、現存しているものに関しては現況調査と図面の比較を行うことでその設計者の真意を明らかにしてきた。本研究も同様の手法を採っていくことにしたい。

対象とする建築物は数多いが、現存しているが解体が予定されている建築物を優先して研究記録着手する。また現存建築で所有者の許可を得られ内部調査可能なものや、既に解体されているが、前述の青焼き図面が残されており、周辺資料調査が可能なものをまず対象とする。

3. 研究の方法

本研究は現存建物の実地調査と周辺の文献資料調査、そして竣工時設計図面アーカイブス化及びその分析の二本柱となる。

東海大学所蔵青焼き逓信建築図面93件は劣化が進んでいるため、研究着手前に専門業者による修復と電子データ化が必修となる。なお修復及びデータ化は本研究予算で可能な10件について選抜した。

4. 研究成果

(1) 図面のデータ化

青図は東海大学学園史資料センターに所蔵されている。折りたたまれて製本され、劣化した状態だったため、広げると折り目から破壊が進む恐れがあり、研究にあたっては最初に専門業者(TRCC東京修復保存センター)による補修(薄手の和紙による繕いや裏打ち)とTIFF形式、

JPEG 形式、PDF 形式によるデータ化を行った。

今回、データ化した物件（タイトル名）10 件（図面枚数合計 214 枚）のリストを次に列挙する。1. 大正十三年度無線電信局(岩槻) 2. 大正十四年度 和歌山郵便局 3. 大正十五年度天下茶屋郵便局 4. 昭和二年度 京橋通郵便局 5. 昭和二年度 苫小牧郵便局 6. 昭和九年度 広島通信診療所 7. 昭和十一年度 吹田郵便局電話分室 8. 昭和十一年度 苫小牧郵便局 9. 大正十四年度 日本橋新右衛門町〔新設二等局〕10. 昭和十年度 東京中央電信局〔増築〕

(2) 建築調査・記録成果（竣工年代順）

(2-1) 和歌山郵便局電話分室（和歌山市）

和歌山郵便局電話分室（図 2）は逓信省営繕課の設計により和歌山市十一番町の旧和歌山郵便局と同じ敷地内に大正 15（1926）年に建設された。今まであまり言及されて来なかったが、本研究により東海大学所蔵青焼き図面（図 3）との一致が確認され、山田守技師の設計であることが判明した。現在は N T T 京橋ビルの一部となっている。登記記録や当時の新聞記事、空中写真などにより、建物の増改築の経緯を明らかにした。

建物内部は女性交換手を主体とした空間が、男性雇員や技官の空間と動線が明確に分けられていたことが明らかになった。また洗面室や休憩室が大きく取られ、女性への配慮が確認できた。サッシには竣工当時のままの鋼製サッシが残されていることも確認できた（図 4）。



図 2

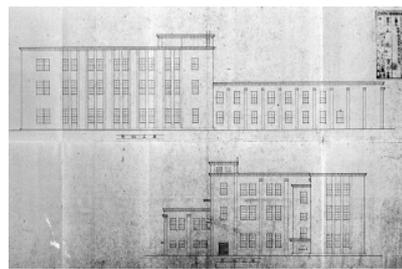


図 3



図 4

(2-2) 日本橋新右衛門町郵便局（東京都中央区）

日本橋新右衛門町郵便局は東海大学所蔵の青焼き図面との照合により、設計は山田守技師であることができた。また登記記録や空中写真など周辺資料の調査により逓信省により東京都中央区新右衛門町 5-9（現在の日本橋 2 丁目・図 5）に 1925（大正 14）年 10 月に着工され、1926（大正 15）年 3 月に完成し、RC 造 2 階建て、延床面積 378 m²の小型の郵便局であったことが判明した。なお、解体時期については 1961（昭和 36）年 8 月頃だったことがわかった。その敷地は日本橋高島屋の一部となっている。その他、青焼き図から内部の様子や外装のデザイン、仕上げまでを明らかにした（図 6）。特に内部の逆円錐形の柱は特徴的で（図 7）、山田の後世の作品にも影響を感じさせるものであった。



図 5



図 6

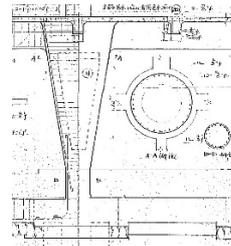


図 7

(2-3) 旧京橋通郵便局（東京都中央区）

旧京橋通郵便局は逓信省により東京都中央区京橋3丁目6-3（現住居表示）、に建てられた建築であるが、現在は建て替えられている。筆者は逓信省時代の建物について検証した。

東海大学所蔵の青焼図面と共に東海大学学内に過去の学生が撮影した写真（図8）やまとめた資料があり、1927（昭和2）年10月に着工され、1928（昭和3）年11月に完成、1976（昭和51）年8月頃に解体されたことが明らかになった。

正面側はタイルが全面に貼られ、建物の角やパラペットまで丸められている。タイル面により包まれたような意匠であり、ドイツ表現主義の影響を指摘した。また、中央上部の時計がシンボリックに据えられ、アーム式の照明によりライトアップされていたことが明らかになった（図9）。さらに、複雑な断面形状の分析を行った（図10）。



図 8



図 9

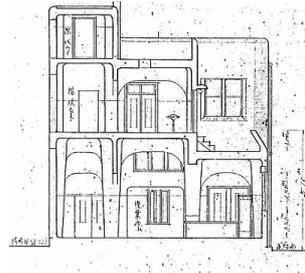


図 10

(2-4) 旧熊本貯金支局（熊本市役所花畑町別館）（熊本市中央区）

旧熊本貯金支局は逓信省営繕課より設計され、1936（昭和11）年に完成、長らく街のシンボリックな存在だったが2017（平成29）年に解体されることになった（図11）。そこで本建物の記録を取るために、所有者である熊本市の許可のもと、解体直前および解体工事中の調査を行なった（図12）。なお、本建物は伊藤重剛らによる先行研究があったので、東海大学所蔵の青焼図面と比較を行いながら解体にあたって明らかになる部分を重点に記録した。

筆者の取材した段階では内装の撤去はすでに終わり、接道側外壁が残された状態で建物内側のコンクリート躯体を解体している最中であった。建物断面について躯体の様子、コンクリートや鉄筋について知ることができた。特に判らないことが多かった躯体による通気ダクトのルートについて、観察することができた（図13）。



図 11



図 12



図 13

(2-5) NTT西日本吹田ビル別棟（旧吹田電話局電話分室）

吹田郵便局電話分室は逓信省によりJR吹田駅に程近い場所に戦前の1937（昭和12年）7月に竣工したが、地元でもほとんど知られていない状態だった（図14）。残念ながら2018年（平成30）年に解体されることになったが、解体直前に東海大学所蔵の青焼図面と照合しながら、内部調査を行い、記録を残すことにした。

本建物は山田守技師の設計だが表現主義的なデザイン操作は姿を消し、インターナショナルスタイルの本格導入を行った例であった。それには電話局が交換手の時代から自動機械式交換機の時代に移行し、

人の利用する建物から機械を入れる箱に変化したことが理解できる。図面では2階建だったが、解体直前は3階が増築されていたこと、その増築過程の履歴も関係書類から明らかにした。またや電力ケーブル引き込み設備の痕跡や重力換気による躯体内換気システムの痕跡（図15・16）も確認が出来た。



図 14



図 15



図 16

(2-6) 旧熊本通信病院（熊本市中央区）

旧熊本通信病院（図17）は1956（昭和31）年に竣工した貴重な通信建築であったが、2017（平成29）年に解体されることになった。そこで解体工事中における建築調査及び記録を行った。

調査では外観、内観の意匠的特徴や内部の採光や通風に関する環境設計の内容（図18・19）、逆梁による設備空間の床下設置の様子（図20・21）、改装により隠れた部分や「はつり」による竣工時の仕上げ材や色彩の記録などを行った（図22）。また設計図面により「西棟」及び「中棟」の意匠設計は山田守であり、「中棟」の構造設計は東京タワーの設計で著名な内藤多伸であることが判明した。また正面玄関の後方にある、ガラスにくるまれた馬蹄形平面の螺旋斜路は象徴的だが（図23）、これは解体前年に発生した熊本地震において患者およびスタッフのスムーズな避難に有効であったことが使用者の証言で明らかになった。



図 17



図 18



図 19



図 20



図 21



図 22



図 23

以上の調査結果は日本建築学会などで発表済みだが、このほかにも

1. 旧下関電信局電話課（現：下関市立近代先人顕彰館）、2. 旧逓信省門司電報電話局（現：門司電気通信レトロ館）、3. 旧姫路電話局（現：姫路モノリス）、4. 旧逓信省別府電報電話局（現：別府市児童館）、5. 旧逓信省大分電報電話局（現：NTT西日本大分支店別館）においても建築調査を行っており、東海大学所蔵の青焼図面の未着手分と共に今後研究を進め、公表していく予定である。

（以上 大宮司 勝弘）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 旧熊本通信病院の解体調査報告 山田守作品研究：17
3. 学会等名 日本建築学会関東支部
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 和歌山郵便局電話分室に関する研究 山田守作品研究：18
3. 学会等名 日本建築学会近畿支部
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 旧熊本貯金支局（熊本市役所花畑町別館）解体報告 山田守作品研究：19
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 京橋通郵便局に関する研究 山田守作品研究：20
3. 学会等名 日本建築学会関東支部
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 吹田郵便局電話分室に関する研究 山田守作品研究：21
3. 学会等名 日本建築学会近畿支部
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 旧熊本通信病院の意匠的特徴 山田守作品研究：16
3. 学会等名 平成29年度日本建築学会中国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 旧熊本通信病院の解体調査報告 山田守作品研究：17
3. 学会等名 平成29年度日本建築学会関東支部研究報告集
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 和歌山郵便局電話分室に関する研究 山田守作品研究：18
3. 学会等名 平成30年度日本建築学会近畿支部研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大宮司勝弘
2. 発表標題 日本橋新右衛門町郵便局に関する研究 山田守作品研究：23
3. 学会等名 日本建築学会関東支部
4. 発表年 2019年～2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----